



熊本県版

No. 260

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

第6回県本部理事会ひらく

5月国会請願、6月第41回全国大会に向け

署名5千筆、会員35人拡大を確認

県本部は3月24日、第6回理事会を開き、5月25日の「国会請願」、6月19、20日の第41回全国大会成功に向けて、署名5千筆、会員拡大35人を必ず達成することを確認しました。

今年の国会請願行動には県本部理事の梅野ヨシエさんが参加することが決まっていますが、署名数は昨年と同時期に比べれば進んでいるものの、目標の5千筆には遠く及ばず、取りくみの一層の強化が求められています。

会員拡大は今年に入ってから2月に2人、3月に5人の計7人の新入会があり勢いがついていましたが、死亡や病気による施設入所などで5人が退会となり、現在の到達は213

人です。

理事会では、目標の250人に一日も早く到達するために各人が目標を出し合い、大会までに新たに35人の拡大を確認しました（理事会の翌日、早速1人拡大し214人になりました）。

八代の映画『伊藤千代子』上映を成功させる

理事会ではこのほか、国賠同盟八代支部が中心になり、市内の主だった労働組合や民主団体と協力して進めている映画『わが青春つきるともく伊藤千代子の生涯』の上映（5月19日・八代ハーモニーホール・前売り券1200円）を成功させ

運動の基本

- 一、 治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
- 三、 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

るため県本部として引き続き全力で支援していくことを確認しました。

今年の九州沖縄ブロック交流会は熊本で

また、今年の九州沖縄ブロック交流会の担当が熊本県本部になっていことから、秋（10月ころ）に熊本市で開催することを確認し、中央本部や他県本部とも相談しながら具体化を急ぐことを確認しました。

田添鉄二顕彰碑に献花



明治時代の熊本出身の社会主義者、田添鉄二の命日にあたる3月19日を2日後に控えた3月17日（日）、国賠同盟県本部の梅野ヨシエ、畠田ミツ子、中根吉春、小田憲郎の4氏が熊本市南区美登里町の田添鉄二の生家を訪ね、その敷地の一角にある田添鉄二顕彰碑に花

束を捧げ、郷土の先覚者を偲びました。

明治時代の社会主義者の多くは、明治社会主義をリードしてきた幸徳秋水が社会主義（マルクス主義）を棄て、無政府主義（少数精鋭、直接行動主義）に転向していったとき、それに追隨していきました。

しかし田添鉄二は、幸徳の変質・転向を厳しく批判してマルクス主義を擁護。特にマルクス、エンゲルスが最後まで追求した多数者革命論を深く研究し、「1000人中、999人の同胞が妻子を携えて進み得る公道（革命の道）」を主張しました。

極貧と両肺結核に襲われ、わずか32歳という若さでこの世を去ったこともあってその存在も優れた理論も歴史の闇に埋もれ、忘れ去られてしまいました。いま、今日に通じる「大衆的多数者革命論」の先駆者として新たな光が当てられようとしています。

来年は田添鉄二生誕150周年にあたり、関係者の間で記念のイベントの検討も進んでいます。

八代市『伊藤千代子』上映実行委員会

横林氏が「郡築小作争議」について報告

3月13日午後6時から、八代市代陽コミュニティセンターで映画『わが青春つきるとも』伊藤千代子の生涯』上映実行委員会が開かれ、12人が参加しました。

実行委員会では毎回、八代における先人の闘いの歴史を学びながら『伊藤千代子』の映画にとりくむ意義を深めていますが、今回は大正末期から昭和の初めにかけて激しく闘われ、全国にも知られた「郡築小作争議」について八代農民連の横林正美氏が報告しました。

横林氏は、八代郡築干拓地は行政機関である「八代郡」が地主で、他所から入植してきた農民が小作人という特殊な関係にあり、警察権力と一体となった群当局との闘いには特別の困難さがあったこと、対する小作人側も農民組合を結成するとともに熊本市内の「水平社」や労働組合、学生なども支援に駆けつけ大闘争に発展したことなどを報告しました。

この日の実行委員会にはほぼすべての賛同団体から代表が出席し、2ヶ月後に迫った上映に向けて取り組みの進行状況を確認するとともに、最後の追い込みに力を入れることを確

認しました。

県下の治安維持法犠牲者の顕彰

梶原氏の遺作『地下水、その噴き出ずるを願って』より『不屈版』記事に関係する犠牲者を折に触れ紹介していきます。今回は八代の郡築小作争議に関係する人を取りあげました。調査しきれないことばかりです。誤記や新たに知っていることがありましたら事務局まで教えてください。

桑原 頼基(くわはら よりもと)

熊本県八代郡高田村大字豊原三二九番地にて出生。福田光雄、前田良雄、桑原政義、田中信雄らと全国農民組合(この組合の右傾化に反対する組織)会議派を組織、地主の土地取り上げ反対の支援、郡築争議に参加。樺太製紙(現在の十条製紙八代工場)の労働者の組織化に取り組む。

一九三一(昭六)年八月頃より『第二無産者新聞』の配布責任者となり、翌年一月二〇日頃、日本共産党に入党した模様。同年七月一三日、治安維持法違反容疑で検挙、一ヶ月ほどで釈放されるが、翌三三(昭八)年二月一八日に同容疑で再度検挙(熊本「二・一七」事件)され、三四年九月三〇日に一審

で懲役二年の判決で下獄。当時二六歳。

戦後日本共産党に入党、八代地域の農民の闘いと日本農民組合の建設に取り組み、同時に日本共産党の組織の建設に力を入れる。一九八二年五月二日死去。

福田 光男(ふくだ みつお)

一九〇八(明四一)年頃、熊本県八代郡高田村字豊原にて出生したと思われる。竹細工職人、桑原頼基の指導のもとに農全会派の組織に加入。一九三二年七月一三日、桑原頼基らとともに治安維持法違反容疑で検挙、一ヶ月間勾留されて釈放。以後、共産党员矢田磨志の指導下で活動。一九三三年二月一八日、再び治安維持法違反容疑で検挙(熊本「二・一七」事件)、同年一〇月二七日起訴猶予の処分で釈放。当時二五歳。戦後は七八年当時、鹿児島県始良郡牧園上中津川で居住。

前田 義雄(まえだ よしお)

一九一〇年、熊本県八代郡高田村豊原にて出生。『第二無産者新聞』配付に参加。工場労働者の組織化を担当。三二年七月一三日検挙、同年八月一八日起訴猶予。

桑原 政義(くわはら まさよし)

一九〇九年、熊本県八代郡高田村にて出生。樺太製紙(現十条製紙八代工場)の労働者の組織化に取り組み。三二年七月一三日検挙。即日釈放。当時二四歳。

「不屈」川柳

清流居士

鬼神泣く飢えた頭上に弾あられ
死の商人敵味方なく武器を売り
祈るのみか虚ろな瞳のガザの子ら
満額の回答スルーわが頭上
大山鳴動やはり一匹自民山
丁寧(ていねい)にウソくり返す鉄面皮

悔いなき青春をかけた感動作ここに誕生!

私は、

権力には負けない

戦争と弾圧の時代、

抵抗と闘いの

一大叙事詩!



わが青春つきるとも

—伊藤千代子の生涯—
Mito

井上百合子 窪塚俊介

石丸謙二郎 津嘉山正種

塚瀬香名子 角田萌果 印南唯 宜野座万鈴 當銀祥恵 田上唯 平田舞 和内璃乃 市橋恵 嵐圭史

ナレーション：長谷川稀世

竹下景子 金田明夫



企画・プロデューサー：桂 壮三郎 原作：藤田廣登 増補新版「時代の証言者 伊藤千代子」(学習の友社・刊) ラインプロデューサー：山地昇 脚本：宮負秀夫 桂 壮三郎
撮影監督：田宮健彦 照明：守利健一 録音：山口勉 美術監督：安藤篤 音楽監督：山谷知明 編集：小林由加子(csw) キャスティング：石井美保子 升本由喜子 記録：増田実子
衣裳：笹倉三佳(おかもと技芸) メイク：オオクボエミコ 助監督：森山茂雄 制作担当：鈴木智 アシスタントプロデューサー：星 孝行 平沢清一
制作協力：アトリエ羅夢 製作：映画「伊藤千代子の生涯」コーポビジュアル企画

桂 壮三郎 監督作品

戦争と無権利の時代、 反戦と主権在民を掲げ闘いに斃れた 若き女性の真実の物語

日本は1925年代(昭和初期)、絶対的天皇専制軍事ファシズムのもと国民は天皇の臣民(天皇の家来)とされ、貧困と無権利の状態に置かれていました。

支配体制を強める絶対的天皇専制政治は中国への侵略を本格化し、1925年に治安維持法を成立させ、共産主義者、社会主義者、労働組合・農民組合、知識文化人などを思想犯罪者として逮捕し拷問を加え弾圧したのです。

多くの若き社会活動家が治安維持法で命をおとしました。伊藤千代子もそうした活動家のひとりでした。

この映画は伊藤千代子をはじめ、この厳しい時代に社会変革への志をもち、必死に生きた人々の真実の物語です。

本映画は映画的リアリズムを追求し、製作者達は真摯な気持ちで作品に対峙し撮影されました。

伊藤千代子役にはオーディションで選ばれ本作品で映画デビューする新人・井上百合子。

その他主要なキャストには、窪塚俊介が複雑な革命家、浅野見を其事に演じているほか、土屋文明に金田明夫、そして石丸謙二郎が冷徹な特高を演じています。

また、東京女子大の学長、安井てつ役で竹下景子が出演。その他、若手新人女優が多数出演。

監督には、映画「校庭に東風吹いて」等製作した社会派監督桂壮三郎がメガホンをとっています。

日本 125分 カラー・ビスタビジョン作品
©2022映画「伊藤千代子の生涯」コーポビジュアル企画

小林多喜二と伊藤千代子 ～時代が結んだ青春～

1928(昭和3)年、日本で初めて25歳以上の男性のみの普通選挙が行われました。このとき伊藤千代子は、北海道から出馬する労農党の候補者・山本懸蔵の選挙資金を助けるなど活動に参加しました。

一方、小樽では小林多喜二らが「われらの山懸」を迎え、たかひの火ぶたが切られました。選挙応援の機会が巡ってきた多喜二は羊蹄山の麓へと吹雪について突き進み「俺たちの運動は何代がかりだなぁ」と…。(小林多喜二『東俱知安行』より)

同時代に、小林多喜二と伊藤千代子は目に見えない糸で結ばれながら、社会変革への息吹を胸一杯に吸うのでした。

二人が、もし特高警察の弾圧で生を絶たれなければ、どんなに素晴らしい人生を切り拓いていったことだろう。



小林多喜二
(1903～1933年)



伊藤千代子
(1905～1929年)

『婦人論』読んで、 ジェンダー平等へのめざめ

「女が勉強して何にならずか」という風潮の中で、向学心に燃えた千代子は、諏訪高等女学校で土屋文明から薫陶を受け、仙台・尚綱女学校では自由・平等の新しい社会思潮にふれ、そして臨んだ東京女子大でベーベルの『婦人論』に出会い、「これだ」と感動した千代子は、郷里の友に書き送る一。

「女の人が覚める時、男子の催眠術から、
そして自己の自己に対する
催眠術から覚める時、
どんなにすばらしい世の中が
展かれて来るでしょう」

(1925年12月発信の手紙から)



賛同団体

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 日本国民救援会 日本婦人団体連合会 婦人民主クラブ 新日本歌人協会
全日本年金者組合 全日本年金者組合東京都本部 全日本民主医療機関連合会 宇治・長野・大阪・東京各山宣会

製作にご支援いただきありがとうございます。熊本県内にて上映会がただいま拡大中です!

2024年

日時 **5月19日(日)** (上映時間125分 各回30分前開場)
①10時30分～ ②14時00分～

会場 **やつしろハーモニホール(桜十字ホールやつしろ)**

前売り券 1,200円(当日券 1,500円)

【主催】「わが青春つきるとも - 伊藤千代子の生涯」八代上映実行委員会

【協力/推薦】民医連・熊建労・治安維持法同盟/八代地区労連・八代九条の会・年金者組合八代支部・新日本婦人の会八代支部

【お問合せ】☎ 090-9561-8733 (光永)